

1992年冬・春季の紀伊水道外域におけるマアジ大型群の漁獲について

On the catch of large size Jack mackerel, *Trachurus japonicus* (TEMMINIK et SCHLEGEL), at the outer Kii Channel in winter and spring, 1992.

武田保幸 (和歌山県水産試験場)

和歌山県ではマアジは中型まき網、定置網、棒受網、一本釣等で漁獲されており、中でも紀伊水道外域を漁場とする2そうまき網11統(比井崎2統、御坊1統、南部1統、田辺7統)によるものは県全体の約7割を占めている。本県のマアジ漁獲量は1978年から1985年には年間約600~2,000トンの低迷が続いたが、1986年に本邦太平洋沿岸各域でみられたと同じように当歳魚の大量の加入があり、その後漸増に転じた。これによって1987年以降の年級群の豊度は低水準期の1985年以前よりもはるかに大きいとみられ、1990年春季3~5月には2そうまき網で1988年級群主体に約1,800トンと短期間で大量に漁獲された(武田1991)。更に、1992年冬・春季にも尾又長約30cmの大型群がまとまって漁獲された。

1992年冬・春季の大型群(銘柄“大”、尾又長27cm以上、モード30cm)の漁獲は図1に示すように2そうまき網の禁漁明けの2月中旬から若干みられ始め、2月下旬には田辺漁協で約140トン水揚げされ、3月には少なくなったが漁は4月上旬まで続いた。比井崎、御坊も同様の経過であった。漁場は紀伊水道中央部の水深約120~170mの陸棚上である。このサイズの大型群は紀伊海底谷周辺で越冬する産卵群であって、例年同時期に漁獲対象になるが、これ程まとまって漁獲されたのは最近では珍しい。他の銘柄では“中”(尾又長22~27cm)が多く、“小”(尾又長16~22cm)は少なかった。最近年の月別体長組成は図2のとおりで、大型群は1991年か9月からかなり目立って漁獲されていたことがわかる。

和歌山県水産試験場では1983~1985年に本種の年齢・生長について集中的な調査を行い(阪本ほか

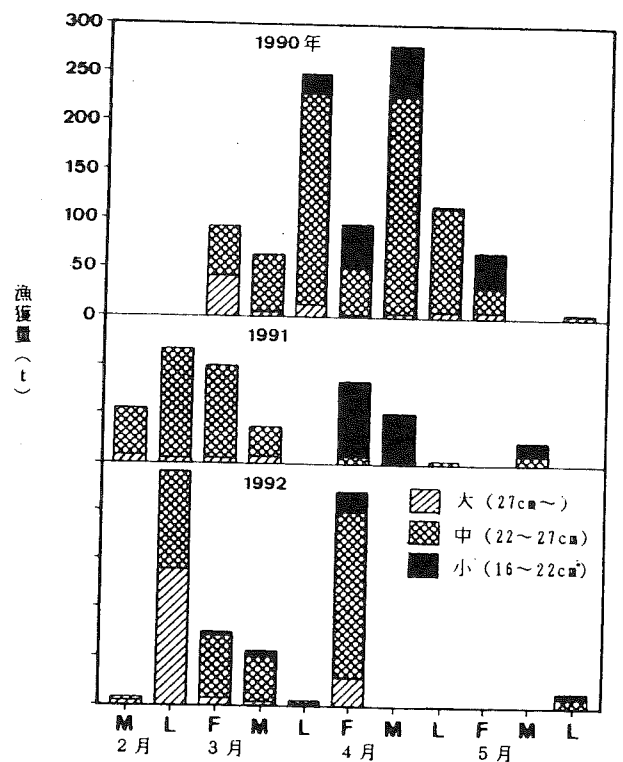


図1 冬・春季におけるマアジ銘柄別漁獲量(田辺漁協2そうまき網7統)

1985)、その知見をもとに著者は耳石法による年齢査定を継続的に実施している。

1992年2~4月の各銘柄を箱単位に抜き取ったものの年齢査定結果を表1に示す。銘柄“大”は主に3~4歳魚、“中”は2歳魚、“小”は1歳魚で構成されていた。このような銘柄別の年齢査定結果と漁獲量から年齢別推定漁獲尾数を求め、1985年からのものについて図3に示した。

以上の結果から、1992年冬・春季の大型群は3歳

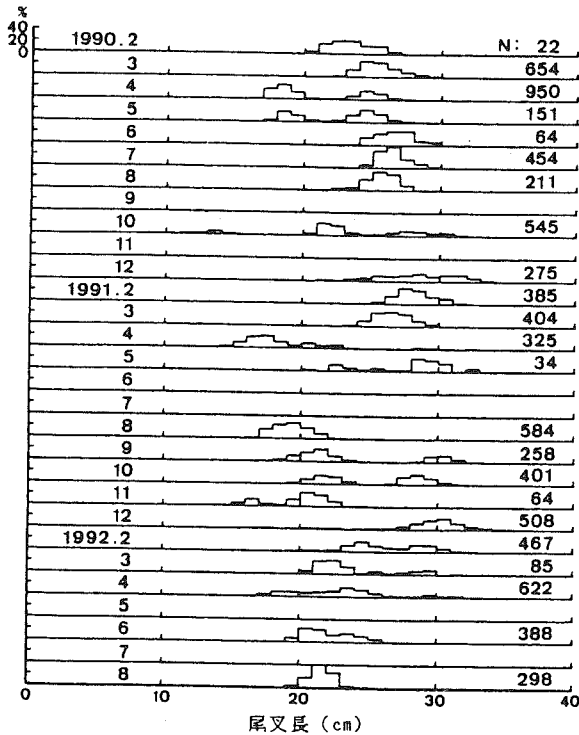


図2 2そうまき網によるマアジ月別体長組成 (田辺、南部、御坊計)

表1 マアジ各銘柄の年齢構成 1992年2月4日

年齢/銘柄	単位: 尾		
	大	中	小
1			104
2	18	193	19
3	50	5	
4	35	3	
5	1		

魚(1989年級群)と4歳魚(1988年級群)が主体で、その尾数比から1988年級群の生き残りが良かったことがわかる。この1988年級群は瀬戸内海生育群であって、1989年冬季には大量の小アジ(当歳、約満1歳)が紀伊水道を経て外域に移出していたことが底曳網操業から確認されている。(和歌山県漁海況情報大57、70報)。そしてこれは1990年春季に2歳魚として大量に漁獲された。したがって最近の紀伊水道におけるマアジの比較的好漁は地方資源によって支えられているので、このような親魚群資源の存在は今後のマアジ漁持続の可能性を支持する有利な一つの条件と言えるであろう。

マアジとマサバの好不漁は昔から紀州漁民の営漁に大きな影響を与え、浜の盛衰をも左右してきた。

両種の生態解明及び漁海況予報の充実は本県水産業の今日的、将来的課題の一つであると考えられるので、今後も現場に密着したモニタリングを地道に継続し、資源動向と利用実態を注意深く見守って行く予定である。

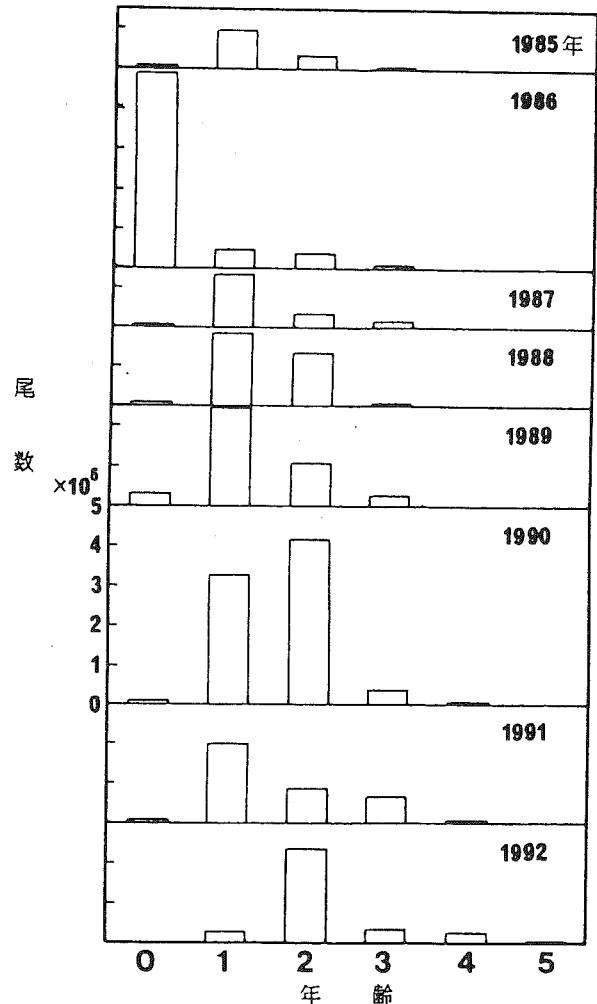


図3 紀伊水道で漁獲されたマアジの年別年齢組成 (田辺漁協2そうまき網7統、1985~1991年は2~12月、1992年は2~5月)

文 献

- 阪本俊雄・武田保幸・竹内淳一(1985) 沿岸重要漁業資源の管理に関する研究(既報). 昭和59年度和歌山県水産試験場事業報告、43-52.
- 武田保幸(1991) 紀伊水道における最近のマアジの年齢構成について、南西外海の資源・海洋研究、7、63-68.
- 和歌山県水産試験場(1984~1992) 和歌山県漁海況情報、1~98.

文 献

- 1) 殿谷次郎 (1981) : 大型冷水塊形成による黒潮流及び徳島沿海の海況変動、昭和54年度徳島県水産試験場事業報告書、128-135.
- 2) 第5管区海上保安本部 (1991) : 1989年海洋概報-土佐湾及び紀伊水道南方海域-.
- 3) 宇田道隆 (1941) : 和歌山、三重両県下のシオ、海洋の科学、1 (1)、24-27.
- 4) 中田英昭、杉浦健三 (1987) : 黒潮大蛇行に伴う瀬戸内海の海況変動、日水誌、53、1925-1932.